

科目名	日常生活活動学（理学療法）	担当教員	山中正紀 小川峻一 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	---------------	------	----------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	2単位	講義

科目概要	本科目では、日常生活活動（動作）の基礎基本事項を学び、人間が豊かな生活を送る上で欠くことのできない一連の生活活動を理解する。具体的には、理学療法の主たる目的である基本動作能力の改善を中心に、摂食活動、排せ活動、入浴・整容活動などの生活動作全般について学習し、視聴覚教材を用いて問題解決のための的確な観察力および分析力を養う。また、各種の疾患による生活動作障がいの特徴を理解するとともに、それに対応する訓練法、指導法、福祉用具や各種支援機器の活用について学習して、生活動作能力の向上を通じて対象者の充実した地域生活に貢献する能力を養う。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活活動を理解し、説明することができる。 2. 基本動作をはじめとする生活動作を観察し、運動や現象を表現することができる。 3. 動作観察によって得られた問題を分析することができる。 4. 各種疾患における動作特性を理解し、対応する訓練法や指導事項を述べるすることができる。 5. 支援機器の特性や目的、使用方法を理解し、説明及び基本的な実践を行うことができる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	総論1	オリエンテーション（科目概要） ADL 総論①	科目概要及び ADL 総論について理解することができる。	
2	各論 1	ADL 総論②	ADL 総論について理解することができる。	
3	各論 2	起居動作①	寝返り・起き上がり動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
4	各論 3	起居動作②	立ち上がり動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
5	各論 4	移動動作③	歩行動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
6	各論 5	移動動作④	階段昇降について意義、運動要素、バリエーションを理解することができる。	
7	各論 6	各種疾患における動作①（片麻痺）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
8	各論 7	各種疾患における動作②（片麻痺）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
9	各論 8	各種疾患における動作③（RA）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
10	各論 9	各種疾患における動作④（切断・膝 OA）	各種疾患による動作を観察し、運動や現象を表現することができる。	
11	各論 10	各種疾患における動作⑤（脊髄損傷）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
12	各論 11	各種疾患における動作⑥（脊髄損傷）	各種疾患による動作特性を理解し、対応する訓練法や指導などを理解することができる。	
13	各論 12	手段的 ADL（IADL）	IADL について意義、運動要素、バリエーションを理解することができる。	
14	各論 13	支援機器（杖・松葉杖・歩行器・車椅子など）	支援機器について名称及び対象及び使用方法を理解することができる。	

15	各論 14	支援機器（自助具・各種介助機器・装置）	支援機器について名称及び対象及び使用方法を理解することができる。
	評価方法	試験（90%）、受講態度（10%）	
	教科図書	編集伊藤利之、江藤文夫：新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－、医歯薬出版株式会社、2010 齋藤宏、松村秩、矢谷令子：姿勢と動作 第3版、メヂカルフレンド社、2010	
	参考図書	奈良勲、鶴見隆正：標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第4版 医学書院、2012 細田多穂監修：シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第2版、南江堂、2014	
	学習の準備	授業のテキスト当該箇所を読んでおくこと	
	オフィスアワー	在室時はいつでも可能	
	担当教員欄に※印を附した教員の実務経験		